

委託事業実施内容報告書
平成27年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】
実施内容報告書

受託団体名 公益財団法人 神戸YWCA

1. 事業名称

神戸YWCA『地域日本語教育実践プロジェクト』

2. 事業の目的

これからの日本社会は、様々な文化、国籍、宗教を持つ人たちとの多文化共生の意識が共有され、実体のある関係を築いていくことが必要である。そのためには、異文化理解をベースにおいた、コミュニケーションのための「ことば」が必要である。

日本語を母語としない外国籍や日本国籍の人たちにおいて、日本語が不自由なことに加え、文化的差異から、日本社会に溶け込みにくい状況にある。特に散住地域の場合、近所付き合いもなく、生活に必要な情報が得にくい。また、地域住民の側も日常の触れ合いがないことから、そういうつもりではなくても、結果的に無視したり、問題が起きた時の対応がうまくいかなかったりしている。

このような状況に対応するために、地域の支援団体(生活相談、医療相談等)、行政の取組(生活支援、自立支援等)や日本語教室はたくさん存在し、それぞれが専門とする支援に力を注いでいる。今必要とされているのは、地域の状況を俯瞰し、それぞれの活動をつないでいくことである。これら同じ目標と目的を共有する各機関が、他団体との連携・協働体制を組んでともに活動するということは、まだまだ活性化されていない。公益財団法人神戸YWCAは、地域において弱者の側に立った活動を目指している。その方針のために地域の人々や団体、諸機関と連携・協力して、地域活動を実践してきた。

前年度の事業は連携関係を作り上げることに重点が置かれたが、今年度は関係をより強化し、効果的な活動に発展させたいと考え、具体的な連携・協働体制を作り上げるべく、以下のことに取り組んだ。

3. 事業内容の概要

① 前年度に出てきた課題に深く継続的に取り組むために、それぞれの取組と課題と成果とを定期的に会議等で共有し、方向付けする。

② 共有された課題に協働で取り組むための講座および普及活動を企画・運営する。

③ これらの活動を発展させ、外国人住民と地域住民、および外国人と彼らが直接接することになる地域の自治会や行政の人々との関係を構築する。

上記の活動により、日本事情に疎く日本語が不自由な人たちが地域での生活になじみ、日本社会で自立して生きるための日本語教育をより効果的に提供できると考えた。また、地域在住の日本人が外国人と接するための具体的なノウハウを得ることによって、ともに共生できる社会を作るための関係づくりが出来ると考えた。地域住民の意識を変えることで、生活する者同士としての支援の幅が広がることが期待できる。”

4. 事業の実施体制について

①運営委員会の構成と運営:様々な立場から外国人生活者支援を行っている機関・団体・個人がメンバーとなり、課題と取組の成果を共有し、協議する。そして、将来的、長期的支援の目標を達成するために必要な具体的な取組について企画する。

②中核委員会:それぞれ専門性を持つ団体、個人が会議を持ち、運営委員会で企画された取組を実施していくために協議し、実行する。

③取組1:地域住民に向けた、多文化理解と「やさしい日本語」普及活動。また行政における「やさしい日本語」使用のための普及活動、行政の窓口で使用できるやさしい日本語版公的文書の作成と試用。

④取組2:外国人生活者に向けた、日本事情理解と日本語教室の実施

⑤取組3:イベントの実施。取組1、2で培ったそれぞれのコミュニケーションスキルを活かし、交流の機会を作り共同作業を行う。

5. 運営委員会の開催について

【運営委員】

1	斎藤明子	神戸女学院大学／神戸YWCA学院
2	水野マリ子	神戸大学
3	福井武司	海外産業人材育成協会／関西学院大学
4	櫻井かおり	神戸YWCA学院
5	岡本和久	神戸市中央区 保健福祉部保護課
6	飛田雄一	神戸学生青年センター
7	もりきかずみ	workmate
8	原田雅子	神戸YWCA

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容	
1	平成27年5月1日 15:00～17:00	2時間	神戸 YWCA会館	水野マリ子、もりきかずみ、斎藤明子、飛田雄一、櫻井かおり、福井武司、原田雅子	今年度の方針	やさしい日本語講座の対象者について。 生活日本語のチラシの内容について
2	平成27年9月7日 14:00～16:00	2時間	神戸 YWCA会館	水野マリ子、岡本和久、斎藤明子、飛田雄一、福井武司、櫻井かおり	これまでの経過報告と今後の方針	生活日本語の学習者と成果について やさしい日本語の取組について 地域共生イベントの予定、実施方法
3	平成28年3月4日 15:00～17:00	2時間	神戸 YWCA会館	水野マリ子、もりきかずみ、斎藤明子、福井武司、櫻井かおり、原田雅子	今年度の振り返りと今後に向けて	修了生の今後の導き方 共生に向けた取り組みの定着に向けて

6. 取組についての報告

取組1：日本人対象「やさしい日本語」普及活動

(1) 体制整備に向けた取組の目標

地域住民、行政、諸機関の日本人を対象に、異文化理解とともに、外国人に対してコミュニケーションが取りやすい日本語の使い方を伝え、普及させる。同時に外国人との実際のコミュニケーションの機会を作る。実施においては、各機関、団体との連携・協働作業を通じて講座を実現する。また、行政の職員が外国人に「やさしい日本語」で対応できるよう、行政との連携において、講座を実施する。

(2) 取組内容

・地域住民対象「やさしい日本語講座」の実施
外国人生活者には、地域の日本社会にとけこみ、ともに生活するために、日本語の基礎的な理解と運用に加えて、日本人とのコミュニケーションに必要な日本語の力が求められている。そして、受け入れる日本人側には、外国人生活者とのコミュニケーションをはかるために、外国人に理解されやすい日本語の使用が効果的である、という認識をもってもらうことが求められる。また言葉だけではなく、異文化を理解し、外国人が日本で生活していることの背景や、行政の行っている外国人に対する施策を知ることなども必要になってくる。この方針のもとに、「やさしい日本語」講座を実施した。異文化の意識の変換から始め、次に普段使っている日本語をどのようにコントロールすれば、外国人に理解されやすい日本語になるか、という視点で、ワークショップ形式で、神戸YWCA近隣の地域において行う。地域のNGOなどで実施する。行政などとの連携によって受講者を確保した。これに続く取組3では、地域在住の外国人、および、取組2「生活のための基礎日本語コース」で日本語を学んだ外国人生活者が参加し、「やさしい日本語」の必要性を実感してもらうことにつなげていった。

・行政職員・保育士・教育委員会メンバー等対象「やさしい日本語講座」の実施。
日常行われている行政窓口業務を担当する職員は、外国人来所者にうまく内容を伝える言葉を持たなければならない。今年度、区役所で実施した講座では、業務内容を説明する状況を再現した録音データをもとに、やさしい日本語に書き換えるワークショップを実施。また、保育士対象の講座は、賀川記念館(馬場氏)の協力を得て、また教育委員会他NGO対象の講座は、ひょうごボランティアネットワーク実務者会議の協力を得て、実施。日常の配布チラシの書き換えを実際にやってみた。いずれも、やさしい日本語にするためのポイントをあらかじめ導入してから作業なので、受講時間は短くても、要領よく変換ができた。これにより、多くの人は難しく考えることなく、「やさしい日本語」の使い方がマスターできるのではと考えられる。講座の機会を増やし、「やさしい日本語」リーフレットを完成させることが次の課題になるだろう。

・行政窓口用に作成中の「異動届改訂版」を実際に使用し、その結果を異動届に反映させるべく、区役所の職員に依頼した。実施期間は1か月程度。実際に使用するとなると、外国人対応の頻度やその外国人の日本語レベルなど、対象者が限られ、期間が短かったこともあって、改訂へのアイディアには結びつきにくかった。今後方法を変えて実施する必要がある。

(3) 対象者

地域住民、地域ボランティア、行政等の窓口担当者、保育所職員など。

(4) 参加者の総数 119 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

そのうちの日本語学習者数 _____ 人

【出身・国籍別内訳】

中国	人	インドネシア	人
韓国	人	タイ	人
ブラジル	人	ペルー	人
ベトナム	人	フィリピン	人
ネパール	人	日本	119人

(5) 開催時間数(回数) 16 時間 (全 7 回)

(6) 活動の具体的内容

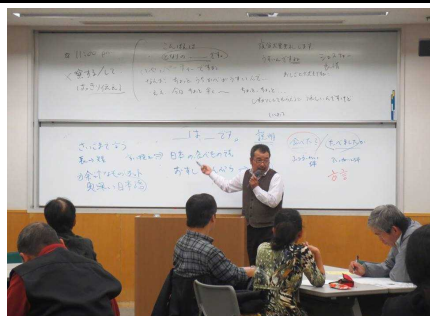
回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成27年7月1日	2	中央区役所	6	「異動届」使用にあたり、職員研修。	やさしい日本語の概念。作成中「異動届」の使い方。	水野マリ子	斎藤明子
2	平成27年8月20日	2	兵庫県国際交流協会	25	やさしい日本語の考え方とワークショップ	やさしい日本語にかえるためのポイントを伝える。 学校文書の書き換えのワークショップ。	水野マリ子	斎藤明子
3	平成27年9月25日	2	友愛幼稚園	22	保育園の保護者にたいする、やさしい日本語の使用	異文化理解。 やさしい日本語にかえるためのポイントを伝える。お知らせ文書、日常の保護者との会話における言い換えのワークショップ。	水野マリ子	斎藤明子
4	平成27年10月24日	2	賀川記念館	10	やさしい日本語の考え方とワークショップ	異文化理解とやさしい日本語の使い方	福井武司	櫻井かおり
5	平成27年11月21日	2	姫路市	19	やさしい日本語の考え方とワークショップ	異文化理解とやさしい日本語の使い方	福井武司	
6	平成28年1月25日	2	神戸学生青年センター	18	やさしい日本語の考え方とワークショップ	異文化理解とやさしい日本語の使い方	福井武司	
7	平成28年2月24日	4	中央区役所	19	やさしい日本語の考え方とワークショップ	窓口業務におけるやさしい日本語	水野マリ子	斎藤明子

(7) 特徴的な活動風景(2～3回分)

活動例①

【2015年11月21日】

姫路市文化国際交流財団の協力により、イーグレ姫路にて実施した。参加者は19名。約半数が日本語ボランティアの経験あり、半数は近隣に住む外国人を何らかの形で手助けしたいと考えている方だった。「異文化とは何か」、また「やさしい日本語の特徴とルール」をグループワークで話し合ったり、確認したりした。後半は姫路市国際交流財団の日本語ボランティア教室で学ぶ学習者2名を会場に招き、パーティーのお知らせ、遠足への誘いなどといった課題をやさしい日本語を使って、学習者に伝えるワークショップを行った。



活動例②

【2016年1月25日】

神戸学生青年センターで講座を実施。参加者は18名。約半数が日本語ボランティアの経験あり、半数は近隣に住む外国人を何らかの形で手助けしたいと考えている方だった。前半は日本独特の「察する文化」がいかに外国人にとって分かりにくい外国語か、「やさしい日本語の特徴とルール」をグループワークで話し合ったり、確認したりした。後半は神戸大学の留学生、神戸YWCAで日本語を勉強したことがある外国人2人を相手に、学生センターの利用の仕方、持ち寄りパーティーのお知らせなどといった課題を与え、実際に外国人に伝えるワークショップを行った。



(8) 目標の達成状況・成果

・地域住民対象「やさしい日本語」講座：日本語ボランティア経験者にとっては、これからの活動に役立つ講座になり、未経験者にとっては「やさしい日本語」の考え方を知る良い機会になったと考える。講座後、ボランティア教室はもちろん、普段の生活の中で外国人と接する際に講座で学習した内容を生かしてもらえるのではないと思う。

アンケートからは、実践的な講座だったという声が多く、講座の後半にワークショップを行ったことがその背景にあると考えられる。また、やさしい日本語は異文化理解、異文化受容の第一歩だと感じたといった声やもう少し長い時間でもよかったという声も聞かれた。

・行政職員、保育士、教育委員会メンバー等対象「やさしい日本語講座」： アンケート実施
今年度は文書の書き換えだけではなく、実際の窓口で使用する会話をデータとして用い、それをやさしい日本語に変えるタスクも行った。またその内容を外国人に使ってみるタスクも行った。これにより、今までいかにわからない日本語を使っていたか、またやさしい日本語に変えれば話が通じやすい、ということが実感できたとの感想が多かった。また、区役所では他の区の職員も参加し、これから取り組もうという意欲が感じられた。それぞれの行政の場所で、「やさしい日本語」の取り組みへの意識が高まっていると実感した。

・区役所「異動届」作成：今まで作成してきた「異動届改訂版」を実際に使用して効果を測った。
担当職員全員ではなく、協力してもらえる職員に限定して、またあまり忙しくない期間に限定して、などの条件のもとに実施。役所のフロアディレクターの協力もあり、4名に協力してもらえた。実施後個別に実施状況を聞いた。

(9) 今後の改善点について

・地域住民対象「やさしい日本語講座」：設定を2時間として行っているが、アンケートからはもう少し長い時間でもよいという声があった。今後は時間を30分か1時間長くし、講座の前半に行う異文化理解、異文化受容に対する受講者の共通認識をつくる時間、後半に参加してもらった外国人の方からのフィードバックの時間を充実させたい。参加者は日本語ボランティア経験者、未経験者が半々であった。双方にとって有意義な講座ではあるが、本来の目的から考えると、より多くの日本語ボランティア未経験者に受講してもらえるようにする必要がある。今後は広報の仕方を工夫し、できるだけ多くのボランティア未経験者に参加してもらえるようにしたい。

・行政職員、保育士、教育委員会メンバー等対象「やさしい日本語講座」：
受講者の中で、外国人との対応が日常的な部署では、非常に熱心に取り組む効果も大きい。神戸市が散住地域であるがゆえに、対象者と会うことが少なく、必要を感じていない部署や地域も多い。しかし、今後、それらの地域へも外国人との共生が必要になる。そのような地域への意識づけと普及のための活動が必要になるだろう。

・区役所「異動届」作成：期間中該当する日本語レベルの外国人があまり多くなかったことから、効果的なデータを得るには至らなかった。やさしい日本語版異動届が実際に効果的に使われるためには、試用期間など条件を考える必要がある。

取組2:生活のための基礎日本語クラス

(1)体制整備に向けた取組の目標

基礎的な日本語教育を受ける機会が乏しい外国人生活者(日本国籍を含む)に対する集中的かつ効果的な日本語教室の実施。生活に必要な基礎日本語を学ぶことにより、日本語学習のモチベーション維持と向上を図り、日本社会で自立した生活を営む自信をつける。

(2)取組内容

事業の概要で記載した日本語が不自由な外国人(日本国籍含む)が抱える課題をふまえ、基礎的な日本語を身につけるための日本語教室を実施した。
日本語力向上を支えるための基礎日本語の指導内容は以下の通りである。
・生活に役立つ日本語を集中的に身につけるためのカリキュラムを用いる。そのために、既存の教科書は使用せず、神戸YWCAのオリジナル教材を使用。
・聞きかじりの日本語はカジュアルな日本語(例「あしたどこいく?」)を使う傾向があり、時として日本人から誤解を受けることがある。そうしたことがないように、丁寧で正しい日本語の話し方の習得を目指すものである。
・ひらがな、カタカナ、生活に必要な簡単な漢字の読み書きができるようにする。
・コミュニケーション力をつけるため、会話中心の授業を行う。発音指導を含んだものとする。
・日本の文化と習慣を取り入れた生活に使える会話練習を多く取り入れる。

(3)対象者

来日したばかりの生活者。長期滞在者及び生活者で、来日してから正式な日本語教育を受けていない16歳以上の日本語が不自由な外国人生活者(日本国籍を含む)。

(4)参加者の総数 26 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

そのうちの日本語学習者数 26 人

【出身・国籍別内訳】

中国	8人	インドネシア	0人	その他
韓国	0人	タイ	1人	・台湾4人
ブラジル	0人	ペルー	0人	・インド2人
ベトナム	1人	フィリピン	5人	・香港1人
ネパール	0人	日本	0人	・ドイツ1人
				・アフガニスタン1人
				・パキスタン1人

(5) 開催時間数(回数) 72 時間 (全 24 回)

(6) 取組の具体的内容

クラス I

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成27年 6月15日(月) 14:00~17:15 (15分休憩)	3時間	神戸 YWCA会 館	13人	自己紹介	自己紹介 ・~にすんでいます。 ・~からきました。 ・家族は~人です。 ・息子は~さいです。 ・~は~です/じゃありません ・~も/何人 ・あ~さ行、ん	福井武司	
2	平成27年 6月16日(火) 14:00~17:15 (15分休憩)	3時間	神戸 YWCA会 館	13人	指示語 時間を使った表 現 時制	・こそあ(もの/場所) ・なん/どこ ・時間(何時) ・から、まで、です ・きょう/きのう/あした/曜日/何曜 日 ・仕事、勉強、学校	斎藤明子	
3	平成27年 6月17日(水) 14:00~17:15 (15分休憩)	3時間	神戸 YWCA会 館	13人	往来動詞文	・行きます/何時に、学校、日本、来 ました・帰ります ・いつ/乗り物 で どうやって	小川佐由理	

4	平成27年 6月22日(月) 14:00~17:15 (15分休憩)	3時間	神戸 YWCA会 館	12人	他動詞文	・他動詞 ・食べます、飲みます、買います、 見ます、勉強します ・どこで ・誰と ・促音、助詞	福井武司	
5	平成27年 6月23日(火) 14:00~17:15	3時間	神戸 YWCA会 館	13人	形容詞文	・形容詞 (ほしいです) ・どうですか。どんな～ ・復習クイズ 長音	斎藤明子	
6	平成27年 6月24日(水) 14:00~17:15 (15分休憩)	3時間	神戸 YWCA会 館	9人	動詞文 願望の表現	・～たいです ・拗音、拗長音	小川佐由理	
7	平成27年 6月29日(月) 14:00~17:15 (15分休憩)	3時間	神戸 YWCA会 館	9人	指示詞 買い物の会話	この・その・あの 大きい数字 いくら、買い物	福井武司	
8	平成27年 6月30日(火) 14:00~17:15 (15分休憩)	3時間	神戸 YWCA会 館	11人	～は～が文	・好きです ・わかります ・あります ・どんな 復習クイズ	斎藤明子	
9	平成27年 7月1日(水) 14:00~17:15 (15分休憩)	3時間	神戸 YWCA会 館	11人	病気表現 位置詞使い方	・病気表現 ・～から ・あります/います(存在文) ・位置詞	小川佐由理	
10	平成27年 7月6日(月) 14:00~17:15 (15分休憩)	3時間	神戸 YWCA会 館	11人	名詞文、形容詞 文の過去形	・名詞・形容詞 ・過去 ・どうでしたか ・どっち	福井武司	
11	平成27年 7月7日(火) 14:00~17:15 (15分休憩)	3時間	神戸 YWCA会 館	8人	授受表現 動詞の文法	・復習クイズ ・～へ～に行きます ・やりもらい/電話をかけます/メー ルを書きます ・ほしいです ・動詞グループ分け	斎藤明子	
12	平成27年 7月8日(水) 14:00~17:15 (15分休憩)	3時間	神戸 YWCA会 館	10人	依頼指示の表現	・てください ・て形	小川佐由理	

クラスⅡ

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成27年 6月15日(月) 9:30~13:00 (20分休憩)	3時間	神戸 YWCA会 館	14人	自己紹介 依頼の表現	・自己紹介(趣味は) ・～からきました／～に住んでいま す／家族は～人です。 ・～てください ・グループ分け⇒て形 ・～て、～て⇒～たり～たり(た形) ・ひらがな特殊拍、促音、長音	福井武司	
2	平成27年 6月16日(火) 9:30~13:00 (20分休憩)	3時間	神戸 YWCA会 館	13人	経験、例示、条 件形	・～たことがあります ・たりたり→た形 ・～たら ・拗音、拗長音	櫻井かおり	

3	平成27年 6月17日(水) 9:30~13:00 (20分休憩)	3時間	神戸 YWCA会 館	13人	普通体の会話 許可 形容詞	・普通形(食べる／食べない) →ない形 ・～てもいいですか ～ないでく ださい。～てもいいですよ。 ・形容詞復習8,12課絵カード ・とき あるときないとき ・漢字導入	後藤範子	
4	平成27年 6月22日(月) 9:30~13:00 (20分休憩)	3時間	神戸 YWCA会 館	12人	そうだ(様態) ～時	・復習クイズ ・形容詞＋そうです(様態) ・Vそうです。(動詞) ・とき 発展 どうしますか ・名詞とき、数字とき ×る・た とき ・生活漢字①	福井武司	
5	平成27年 6月23日(火) 9:30~13:00 (20分休憩)	3時間	神戸 YWCA会 館	10人	可能	・可能動詞 ・(しか～ません) ・(見えます・聞こえます) ・(できます(完成)) 生活漢字②	櫻井かおり	
6	平成27年 6月24日(水) 9:30~13:00 (20分休憩)	3時間	神戸 YWCA会 館	9人	可能	・可能復習と続き (たらなど使う) ・～やすい、～にくい ・生活漢字③	後藤範子	
7	平成27年 6月29日(月) 9:30~13:00 (20分休憩)	3時間	神戸 YWCA会 館	9人	変化の表現	なります 復習 ようになります 生活漢字④	福井武司	
8	平成27年 6月30日(火) 9:30~13:00 (20分休憩)	3時間	神戸 YWCA会 館	11人	～です アドバイスを求める	んです。 ～たら いいですか。 生活漢字⑤	櫻井かおり	
9	平成27年 7月1日(水) 9:30~13:00 (20分休憩)	3時間	神戸 YWCA会 館	9人	理由～し 未完了	～ながら～(復習) ～し、～し まだ～ていません 生活漢字⑤	後藤範子	
10	平成27年 7月6日(月) 9:30~13:00 (20分休憩)	3時間	神戸 YWCA会 館	8人	条件文	・～か(疑問詞) ・たら／ても	福井武司	
11	平成27年 7月7日(火) 9:30~13:00 (20分休憩)	3時間	神戸 YWCA会 館	10人	理由 アドバイス	・ので ・た／ないほうがいい	櫻井かおり	
12	平成27年 7月8日(水) 9:30~13:00 (20分休憩)	3時間	神戸 YWCA会 館	10人	使役 許可を求める会 話 比較	・使役復習 ・許可を求める表現(ので使用) ・どちら、どれ復習 ・～てみます	後藤範子	

(7) 特徴的な活動風景(2～3回分)

活動例①

【2015年6月15日～7月8日】

どちらのクラスも、丁寧な日本語を話すことを目標にし、生活に必要な表現を重点的に練習した。特にクラスⅡでは、これまで生活の中で身に付いた日本語がどのような構造なのか意識し、コースが修了した後も自分で学習していけるようにした。託児が可能なコースにしたことで、小さい子どものいるお母さんの参加が可能になり、日本で育児にも役立つ日本語を学ぶことができた。



(8) 目標の達成状況・成果

これまで、聞きかじりで身に付いた日本語で生活してきたので、初めて日本語の文法ルールなどに触れたという人が多かった。最初はその結びつきが難しかったのだが、意識して話すうちに、日本語力がぐっとのびたと思われる。学習者自身のモチベーションも上がり、今後の目標ができたという声も聞かれた。またゼロからの人たちは、初めにきちんと集中して学習することで、日本語に対する抵抗がなくなり、会話練習によって、日本での生活に早くなじむことができるというメリットも大きい。

(9) 今後の改善点について

- ・月火水というスケジュールにしているのは、生活者である学習者の負担と、日本の学校や生活習慣にできるだけ慣れることができるようにという目的とのバランスを考慮したからだが、4週間では少し短いのかかもしれない。多少見直しが必要だと考えている。
- ・通常のボランティア教室には通いにくい小さい子どものいるお母さんたちの託児希望が多く、受講希望者全員を受け入れるのは難しかった。さらに増えることも考えられるので、体制の見直しが必要だろう。

取組3: 多文化共生社会の実現に向けたイベント

(1) 体制整備に向けた取組の目標

取組1, 2で学んだ人が、それを実際に活かせる場とする。また地域住民と外国人生活者がともに一つのイベントを作り上げることにより、地域住民と外国人生活者の交流と共生のためのきっかけを作る。

(2) 取組内容

①二宮地区: 地域の夏祭り参加イベント(2回)

取組2「生活者のための基礎日本語クラス」を受講した外国人生活者が中心となって、地域の祭りや地域のイベントへの参加を企画、準備、実施した。事前準備として、二宮市場で、地域の方より説明を受け、祭りの直前に、担当するポップコーンの機材を使って練習を行った。地域住民の方には、できるだけやさしい日本語を使って話してもらった。

地域住民は、「やさしい日本語」をツールとして、外国人生活者の参加のために協力する。このことにより、双方が一つの目的のために共同作業を行う家庭を実体験してみる。イベントには地域住民とあまり関わってこなかった地域在住外国人グループや、地域の学校に子どもを通わせていた地域住民を巻き込んだ形にしていく。このようにして、イベントを、共生のきっかけ作りに役立てる。地域の祭りに参加する形は、地域住民の積極的な参加が見込まれるためである。

②若菜地区: 防災訓練実施に向けて、交流会、餅つき大会。防災訓練。

取組1で「やさしい日本語」講座を受講した、地域住民の人々と、地域在住の外国人、および取組2で「生活者のための基礎日本語クラス」を受講した外国人生活者が協力しあって交流の会を催した今年度も、地域社会福祉協議会、街作り協議会、自治会、民児協(民生委員、児童委員で構成される)等との協力のもと、参加することができた。

事前に、神戸YWCAの卒業生や学習者が中心となり、地域の外国人に参加を呼びかけた。昨年度の経験から、防災訓練の前に楽しいイベントで、地域の人との交流を深めるという目的で餅つき大会にも参加した。今年度は防災に興味を持ち、必要性を感じて参加した外国人も増えた。また、消防団の方々をはじめとした地域の方々からは、外国人には理解が難しかったAEDの使い方を、やさしい日本語を使うことに留意しながら丁寧に指導してもらうこともできた。

(3) 対象者

日本人、外国人(誰でも)

(4) 参加者の総数 83 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

そのうちの日本語学習者数 33 人

【出身・国籍別内訳】

中国	8人	インドネシア	人	その他
韓国	人	タイ	人	台湾3人、エジプト2人、イギリス人2人、フランス人1人、カンボジア人1人、インド1人、コロンビア1人、パキスタン1人
ブラジル	人	ペルー	3人	
ベトナム	7人	フィリピン	3人	
ネパール	人	日本	50人	

(5) 開催時間数(回数) 28.5時間 (全 8回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成27年6月28日 18:00~19:00	1時間	二宮市場	7人	夏祭り準備	夏祭り参加のために地域住民による説明。講師はやさしい日本語での説明を実施。および日本語の講義	斎藤明子、福井武司	
2	平成27年7月6日 13:00~15:00	2時間	二宮市場	7人	夏祭り準備	夏祭りで担当する機材の使い方練習	斎藤明子、福井武司	

3	平成27年8月1日 15:30～19:00	3.5時間	二宮市場	10人	夏祭り参加	地域住民と協力して屋台の準備販売を実施する。	福井武司、櫻井かおり、斎藤明子	
4	平成27年8月23日 15:00～19:00	4時間	若菜地区公園	7人	盆踊り参加	地域住民と地域在住外国人他が交流する	斎藤明子、福井武司	
5	平成27年8月30日 15:00～19:00	4時間	二宮福祉センター	5人	夏祭り参加	地域住民と協力して屋台の準備販売を実施する。	斎藤明子、福井武司、櫻井かおり	
6	平成27年10月12日 9:30～15:30	6時間	神戸YWCA会館	25人	バザー	地域住民と地域在住外国人他が交流する	斎藤明子、櫻井かおり、小川佐由理	
7	平成28年1月17日 11:00～15:00	4時間	神戸YWCA会館	7人	もちつき大会	地域住民と地域在住外国人他が交流する	斎藤明子、小川佐由理	
8	平成28年2月7日 9:30～13:30	4時間	若菜地区公園	49人	防災訓練	防災訓練を体験。交流	斎藤明子、櫻井かおり	

(7) 特徴的な活動風景(2～3回分)

活動例①

【2015年10月12日】

神戸YWCA会館でのバザーで、自国の料理を作り、出店した。学習した日本語を使って、自国の料理や文化について説明し、日本人と会話をした。バザーには、夏祭りで交流した地域の日本人にも参加を呼びかけた。講師がやさしい日本語についての説明を適宜行い、日本人は、そのやさしい日本語を使って外国人との会話をを行った。



活動例②

【2016年2月7日】

地域の防災訓練に参加。避難の方法やAEDの使い方などについて地域の人たちと共に体験・学習した。中核メンバーの全さんを軸にし、参加している日本人は、やさしい日本語を使って外国人と話す経験をした。また、災害時、外国人が日本人を助ける場合もあるということも互いに確認することができた。

写



(8) 目標の達成状況・成果

地域の夏祭り、バザーでは、日本人側から好意的な反応が多かった。日本語は不十分だが、日本で生活するために積極的に日本人と交流しようという外国人がいることがわかってもらえたのではないかな。そして、できるだけやさしい日本語を使って日本語で会話をしようという意識が高くなっているように思えた。また、外国人からは、日本人が親切だったことと、日本語で話すことへの自信がついたという感想があった。

防災訓練は、YWCAで学んだ学習者を中心に地域在住の外国人に参加を呼びかけて、まず防災に関心を持ってもらうようにした。外国人が積極的に防災訓練に参加することで、外国人も地域の一員であることがお互いに認識できたようだ。

(9) 今後の改善点について

今年度は、各方面の協力により、様々な行事を通して、地域の方々と外国人との交流の流れができたが、今後も深い共生のためには、互いに理解が進むようもっと地道な努力を続けていかなければならないだろう。また、やさしい日本語を使う機会が増えるよう、地域の方々が神戸YWCAへ気軽に足を運べるような行事を実施することも考えていきたい。

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

これからの日本社会は、様々な文化、国籍、宗教を持つ人たちとの多文化共生の意識が共有され、実体のある関係を築いていくことが必要である。そのためには、異文化理解をベースにおいた、コミュニケーションのための「ことば」が必要である。

日本語を母語としない外国籍や日本国籍の人たちにおいて、日本語が不自由なことに加え、文化的差異から、日本社会に溶け込みにくい状況にある。特に散住地域の場合、近所付き合いもなく、生活に必要な情報が得にくい。また、地域住民の側も日常の触れ合いがないことから、そういうつもりではなくても、結果的に無視したり、問題が起きた時の対応がうまくいかなかったりしている。

このような状況に対応するために、地域の支援団体(生活相談、医療相談等)、行政の取組(生活支援、自立支援等)や日本語教室はたくさん存在し、それぞれが専門とする支援に力を注いでいる。今必要とされているのは、地域の状況を俯瞰し、それぞれの活動をつないでいくことである。これら同じ目標と目的を共有する各機関が、他団体との連携・協働体制を組んでともに活動するということは、まだまだ活性化されていない。公益財団法人神戸YWCAは、地域において弱者の側に立った活動を目指している。その方針のために地域の人々や団体、諸機関と連携・協力して、地域活動を実践してきた。

前年度の事業は連携関係を作り上げることに重点が置かれたが、今年度は関係をより強化し、効果的な活動に発展させたいと考え、具体的な連携・協働体制を作り上げるべく、以下のことに取り組んだ。

(2) 目的・目標の達成状況

数年にわたる、地域住民と外国人住民の共生というテーマでの活動の結果、以下の成果が得られた。

①行政、地域、NGO他団体との日本語教育に関する共通理解が出来上がっていて、活動の目的の共有が容易になっている。

そのため、スムーズに活動に取り組みやすくなっている。

例えば、自治会など地域住民と親しい関係が出来上がり、目的が理解されているので、さまざまな行事を実施するとき、リーダーシップをとって日本語を使った活動する住民が増えている。また、日常的に外国人と日本語での交流をしている人が増えている。

②やさしい日本語の理解が進んできて、各機関やボランティアの集まりなど、必要と認識した機関からの依頼があって、講座を実施することが増えてきた。ラジオ放送「FMわいわい」からの依頼もあった。

これは、連携団体からの情報拡散によるものが大きい。

③生活のための基礎日本語クラスの受講により、来日間もない人たちは日本で生活していく上で、日本語学習を続けていく基礎ができた。これまであまり学ぶ機会がなかった人は、きちんと日本語を学習したことで、ボランティア教室などで学習していたことの整理ができ、また、今後も日本語学習を続けて、いずれは日本で進学あるいは就労を目指したいというモチベーションにもなった。

地域の方や、各団体を通して、家族や支援者からの日本語クラスへの問い合わせは増えている。日本で生活するにあたり、来日直後からの日本語教育が重要だという考えが周知されてきたと考えられる。

④神戸YWCAが核となって、地域や行政、他機関との連携ができ、共に協力して、外国人との共生に向けて活動するという意識が高まっていると感じる。それと同時に、今までつながりのなかった機関との関係ができてきている。例えば、防災訓練実施のときの地域の警察や消防署など。知識では分かっていただろうが、実際の外国人と話してみて初めて気づくことがあったようだ。

(3) 地域における事業の効果、成果

①「やさしい日本語」の普及活動において、行政職員をはじめ、保育士、学校教師、ボランティア、そして普段外国人とは積極的にかかわらずに済んでいた地域住民の気づきに貢献できた。外国人とのコミュニケーションの不便さの解消や、外国人と共に暮らすことの認識に至ったことは成果であると考えられる。

②外国人が日本語の基礎をしっかりと学ぶことは、日本語の上達に必要なことである。基礎を学ばないまま長年定住している多くの外国人の場合、日本語の上達は望めない。その結果、子育て中の母親が病院や学校との連絡でも苦勞し、希望する職種につくことも難しい。このような状況にならないために、基礎の日本語の授業は効果があったと考える。

③地域での付き合いは、普段の交流があれば互いに知り合いとして認識でき、文化の違いや、問題点(例えば、騒音やごみ問題など)も良好な関係のまま解決できる可能性が大きくなる。ツールとしての「やさしい日本語」を使用したこの取組により、地域住民が在住外国人と親しい関係が築けてきたように思われる。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果

・地域の盆踊り、餅つき大会のような、若者が少なかったために取りやめになっていた行事を復活するための企画作りに参加した。若い年代の外国人居住者や日本語学習中の地域中学生などが共同できるプログラムになった。また、行事に向けて盆踊り練習や盆踊り準備なども協力できた。

・市場の夏祭りには、事前に地域センターに集まって、自治会代表からレクチャーを受けた。その結果、屋台を任される状況になった。いずれも、社会福祉協議会のつながりから生まれた、自治会やふれあい町づくり協議会などのメンバーとの連携によるものである。

・地域の人々は、「やさしい日本語」を意識しつつ知り合いになった外国人に声をかけ、好意的な態度だった。外国人側は、学んだ日本語を駆使してコミュニケーションに挑戦し、ともかく仕事をなし終えた。生活のための基礎日本語のクラスのカリキュラムを通じ、「丁寧な日本語」を話すという目標があり、地域の方から見て、日本語教育を受けた人とそうでない人では、まだ不十分ながらも、意識に違いがあるのだと、日本語教育の必要性についての理解が少し進んだと感じる。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

連携諸機関を通しての周知・広報の力が大きかった。また兵庫県国際交流協会や神戸国際協力交流センターなどの国際交流協会、各ボランティア教室や兵庫県ボランティアネットワーク実務者会議等、日本語関連の諸機関を通じた広報も効果があった。過去の受講者からの口コミも大きかった。

成果は「FMわいわい」や、神戸YWCAニュースレター、機関紙などを通じて発信した。

(6) 改善点、今後の課題について

①現状:ここ数年のこの事業の継続により、地域住民の意識は徐々に変わり、外国人住民と付き合うことを前提とした暮らしというものを受け入れつつあるように感じられる。これまでは、まるで無関係であるような意識の人が大半であったがその割合が減ってきているようだ。そのきっかけである「やさしい日本語」の使用は必要性を認識されてきたと思われる。また、外国人学習者の側も、適当に通じる程度の日本語では、定住した場合の生活には不足であるという認識も出てきている。

②今後の課題:日本語学習において、その期間、仕事ができないために受講できない人が多いことである。基礎の日本語をまなぶためには、ある程度まとまった期間、集中的に学ぶことが必要であると考え、その期間の確保が難しい点である。また、地域との共生においては、日常的なつきあいを実現するための新たなしなかけがまだまだ必要だと思われる。

③今後の課題解決に向けた活動予定:外国人向け日本語講座は、学習者を、新渡日でまだ仕事に就かない、より初期のレベル対象にしぼったほうが効果があると考え。また、時間的に受講可能な母親向けには学校文化と学校からの連絡に備えた文字学習などの特化した授業が効果的だろうと思われる。このことから、日本語教育は今後は、それら特化した対象向けのカリキュラムを実施したい。また、地域への働きかけにおいては、外国人が主導し、地域住民が協力する形で、定期的なカフェの開催などが課題となる。

(7) その他参考資料添付資料参照